

日本とドイツの大学生によるEタンデム：インターネットを介した学習者同士の学び合い

脇坂, 真彩子
九州大学留学生センター

<https://hdl.handle.net/2324/4755279>

出版情報：ことばと文字. 6, pp.88-97, 2016-10-05. 日本のローマ字社
バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted by copyright reason



日本とドイツの大学生による E タンデム

―インターネットを介した学習者同士の学び合い―



脇坂真彩子

1. はじめに

タンデム学習とは異なる母語を話す二人がペアになり、互惠性と学習者オートノミーの原則の下で、互いの言語を学び合うという学習形態のことである (Brammerts & Little, 1996)。タンデム学習では学習時間を半分に分け、それぞれの学習時間において「学習する人」と「パートナーの学習を助ける人」という役割を交替する。そして、学習内容や方法は、それぞれの時間における「学習する人」が決める。たとえば、ドイツ語を学習する日本語話者と日本語を学習するドイツ語話者が、1時間半のタンデム学習を行う場合であれば、振り返りと次回の計画を立てるための時間を除いた、約1時間が学習の時間となる。初めの約30分を日本語学習に、後の約30分をドイツ語学習にあてると、前半では日本語学習者が、後半ではドイツ語学習者が学習のイニシアチブを取ることになる。目標言語は異なるが、ペアの二人はともに言語能力の向上を目指す者同士であり、互いを自律的な言語学習者として尊重し、協力し合うのである。本稿では、インターネットを介してドイツと日本の大学生が行った E タンデム¹⁾の実践について、その枠組みと実際の学習者の様子を紹介し、私が実践を行う過程で直面した問題について述べたい。

2. E タンデム・プロジェクトの枠組み

本稿で紹介する E タンデムの実践は、2010年に、私の博士論文 (脇坂, 2014) のための研究プロジェクトとして始まり、その後、現在に至るまで改善を重ねつつ、実践しているものである。このプロジェクトでは、ドイツで

日本語を学ぶ大学生と日本でドイツ語を学ぶ大学生がインターネットを介して一対一でタンデム学習を行う。これまでに4回プロジェクトを行ったが、ドイツの参加者の専攻は様々であり、日本語レベルはヨーロッパ言語共通参照枠でA1～A2程度、日本の参加者の専攻はドイツ語またはドイツ文化でドイツ語レベルはA1～B1程度であった。プロジェクトの募集から学習開始までの流れは次のようである。まず、それぞれの大学で参加希望者を募り、Skypeセッションが可能な曜日・時間帯や参加の目的、応募時の目標言語レベルなどの情報をもとにペアリングする。ペアが決定したら、コーディネーターがそれぞれのペアにパートナーのメールアドレスとSkype名を知らせ、ガイドラインを送付する。Skypeを介して、個別に30分程度のガイダンスを行った後、各ペアはガイドラインに沿って一対一で学習を開始する。

3. E タンデムの実際

参加者らはガイドラインに沿って、最初の週のテーマである「自己紹介」からやり取りを始める。参加者のほとんどが、このプロジェクトに参加するまで語学教師以外の目標言語話者とやり取りをした経験がないため、うまくやり取りができるのかという不安と、ネイティブスピーカーと話せるのが楽しみだという期待が入り交じった感情で初回のセッションに臨むようである。参加者の中には、視覚情報があつたほうがよいというコーディネーターからのアドバイスを参考に、前もって自分の家族や住んでいる街の写真を用意して、パートナーに話す内容を準備する人もいる。過去には初回のセッションに向けてB5ノートの見開き2ページにびっしりと「セリフ」を準備した人もいた。そのようにして迎える初回のセッションでは、目標言語が通じたという経験をすることで不安が自信へと変わり、次のセッションへの動機づけになる人もいれば、自分の言いたいことが思うように表現できず、もっとがんばらなくてはと学習への決意を新たにする人もいる。

2010年と2011年に行ったプロジェクトではEメールとSkypeを使用し、2015年に行った2回のプロジェクトはSkypeのみで行ったが、いずれの場合も、参加者らはプロジェクトを始める前までは赤の他人であつたにもかかわらず、2～3週目にはパートナーとのオーセンティックなやり取りを楽し

んでいた。以下に示すのは、実際に参加者が行ったメールのやり取り（図1）と Skype でのやり取りの文字化の一部（図2）である。

ナナさんから David さんへのメール¹²⁾

Meine Lieblingsfilme sind Harry Potter Serie und Kisaragi. (中略) Kisaragi ist einen japanischen Film. In dem Film sammeln sich vier Männer in ein klein Zimmer um über ein jünge Idol selig zu trauen. Sie bleiben bei seiner Behauptung, dass sie sich ist der Freund, der ist eifrigst. Aber ein man in der Party spricht, dass er kennt die Ursache des Tods von ihr. Und sie sprechen sich mit die Ursache aus. Und am Ende finden sie die richtige Ursache. „Kisaragi“ ist der Name des jünge Idol. Der Name ist „Kisaragi Miki“. Der Folgerung in dem Film ist sehr interessant. Der Film wurde im Theater gespielt. Ich wollte zu sehen gehen, aber der Tag gab wir in GI eine Willkommenparty für neue Schülere. (私の一番好きな映画は『ハリーポッター』シリーズと『キサラギ』です。(中略)『キサラギ』は日本映画です。映画では4人の男性が小さな部屋に集まり、今は亡き若いアイドルの死について悲しんでいます。彼らはそれぞれ自分が彼女の最も熱狂的なファンであるという主張を変えません。しかし、パーティで一人の男性が彼女の死の原因を知っていると話します。そして彼らは、彼女の死の真相を話します。ラストで、彼らは納得できる彼女の死の原因を見つけます。若いアイドルの名前が「キサラギ」です。彼女の名前は「キサラギミキ」。この映画のラストはとても面白いです。この映画は映画館で上映されました。見に行きたかったけれど、この日にサークルの新入生歓迎会がありました)

(2010年12月9日)

David さんからナナさんへの返信

こんばんは。昨日の晩にはキサラギを見ました、とてもいい映画だと思います。そうして映画の終わりは本当に驚きました。ナナさんがもっと映画を推薦してくれることはうれしいです。本についてハリーポッターも好きですが、私の好きな本は「銀河ヒッチハイクガイド」とです。その本はとても面白いですよ。主題は地球の爆発です。(以下略)

(2010年12月10日)

図1 DavidさんとナナさんのEメールのやり取り

- | | | |
|---|----------|---|
| 1 | Charlie: | Mein Opa, weißt du, mein Großvater? Mein Opa? (僕のおじいちゃん、知ってる？僕の祖父、僕のおじいちゃん) |
| 2 | 裕子: | Opa Opa Ja, ja (Opa Opa うん、うん) |
| 3 | Charlie: | Genau. Der war Pastor (そう。彼は牧師だったんだよ) |
| 4 | 裕子: | おー！ |
| 5 | Charlie: | ja, und (うん、それで) |
| 6 | 裕子: | [pro] testantisch? (プロテスタントの?) |

- 7 Charlie: hai protestantisch und deshalb, ähm, sind wir auch sehr, nicht sehr, aber wir sind auch christlich erzogen und äh, wir beten zum Beispiel auch vor dem Essen, "Alle guten Gaben, alles was wir haben, kommt oh Gott von dir, Dank sei dir dafür, Amen" und dann essen wir! <笑い> Das ist wie "itadakimasu" "gochisousamadeshita" <笑い> (はい, プロテスタントの, だから, えーと, 僕たちは, すごく, いやすごくじゃないけど, 僕たちもキリスト教の教育を受けてきたんだ. えーと 僕たちがたとえば, 食事の前に祈るのは, 「全ての良い贈り物, 私たちが持っている全てのものは, あー神様, あなたからいただきました。ありがとうございます。アーメン」と言ってから僕たちはご飯を食べるんだ! <笑い> それは『いただきます』とか『ごちそうさま』みたいじゃないかな?)
- 8 裕子: <笑い>
- 9 Charlie: Ja, so was, und ähm, und, ja, mein Opa, kennst du das Wort "Taufe" ? Taufe? Taufen? Taufen? (うん, それからえーと, うん, 私のおじいちゃんは, あなたは「Taufe (洗礼)」? 「Taufen (洗礼する)」という言葉を知ってる?)
- 10 裕子: Taufe?
- 11 Charlie: Wenn man klein ist oder, man wird in der Kirche getauft. Dann bekommt man hier Wasser über den Kopf (小さい頃, 教会で洗礼して, 頭に水を注ぐんだ。)
- 12 裕子: ん?
- 13 Charlie: Kennst du das Wort "Taufe"? (「Taufe」という言葉を知ってる?)
- 14 裕子: Was ist Taufe? (Taufe って何?)
- 15 Charlie: Taufe?
- 16 裕子: Taufe
- 17 Charlie: Taufe T-A-U-F-E
- 18 裕子: T-A-U-F-E <辞書で調べる> はーはーはー Ja (はい)
- 19 Charlie: Meine Opa, äh, hat mich getauft (おじいちゃんは僕に洗礼を施したんだ。)
- 20 裕子: あー!
- 21 Charlie: Ok? Weil er Pastor war (わかる? 彼は牧師だったから)
- 22 裕子: はー ich habe ich habe um xxx ich habe nicht getauft (私は 私はうーん xxx 私は洗礼を施していません。)
- 23 Charlie: Du wurdest nicht getauft? Ich wurde nicht getauft, heißt das (あなたは洗礼を受けなかった? Ich wurde nicht getauft っていうんだよ)
- 24 裕子: Ich will, ich will, Zukunft, in Zukunft, ähm, in Zukunft taufen (私は, 私は将来, 将来, えーと, 将来洗礼を施すつもりです。)
- 25 Charlie: Ah achso, man sagt, äh, ich möchte mich in der Zukunft taufen lassen (ああーそう, えーと, "ich möchte mich in der Zukunft taufen lassen." というんだよ)
- 26 裕子: lassen! lassen lassen! <うれしそうに>

- | | | |
|----|----------|-----------------------------|
| 27 | Charlie: | はい <笑い> Sehr gut! (すごくいいね!) |
| 28 | 裕子: | <笑い> |

図2 Charlieさんと裕子さんの Skype セッションの一部

David さん（日本語学習者、仮名）とナナさん（ドイツ語学習者、仮名）は、やり取りを通じてアニメや日本映画が好きだという共通点を見つけ、互いの好きな作品について情報を共有していた（図1）。Charlie さん（日本語学習者、仮名）と裕子さん（ドイツ語学習者、仮名）のやり取りでは、裕子さんの父親が牧師だと知った Charlie さんが、自分の祖父も牧師であり、幼い頃に受けた教育がキリスト教に根ざしたものであったことや祖父から洗礼を授けられたことを話していた（図2）。このように、E タンデムでやり取りする内容は、架空のものではなく、実際の自分の経験に基づいた感情を伴うものである。こうして、参加者にとってそれまで単なる「学習言語」だったドイツ語や日本語は「コミュニケーションのツール」となる。このような E タンデムでのやり取りは語学授業とは異なる経験だと感じられているようである。

現在行っている E タンデム・プロジェクトでは、第一週目と第二週目の学習内容（テーマとタスク）は枠組みで決められているが、第三週目以降の学習内容や方法は参加者が決める。各ペアは第二週目のやり取りの終わりに、翌週に行う学習内容と方法を決め、第三週目にそれを実行する。決められた学習期間終了後に行った質問紙とインタビュー調査によると、第三週目以降の学習内容はペアによって様々であるが、たとえば、二人の共通の趣味であるジブリ映画をテーマとしてやり取りするペアもあれば、日常会話ができるようになることを目標に一週間の出来事を紹介し合うペアもあった。日本への旅行やドイツへの短期留学を念頭に置いている参加者はそれぞれの国について調べ、質問したり、情報を提供したりし合っていた。

さらに、質問紙およびインタビュー調査では、参加者から「目標言語が聞き取れるようになってきた」「目標言語を話すことに慣れてきた」「語彙が増えた」などの言語能力に関する感想や、「異文化にいる、自分と同世代の人の生活や考え方が知れて面白かった」「パートナーと思ったより共通点

が多いと感じた」などの文化知識に関する声が聞かれた。また、E タンデムをきっかけに相手の国に行ってみたいと思うようになったという意見もあった。このプロジェクトでは、枠組みで定められた6週間の後、学習を継続するかどうかをペアで決めることになっており、実際に数ヶ月にわたって、学習を続けるペアも多い。E タンデムが他ではできない特別な経験だと捉えられていることや、学習を継続するうちに、パートナーが自分にとって大切な友人だと認識されることがその理由であるようだ。

4. 直面した諸問題

ここからは実践を行う過程で私が直面した5つの問題について述べる。

4-1. 時差の問題

ドイツと日本には通常は8時間、サマータイムには7時間の時差があるため、Skype セッションは通常ドイツが昼、日本が夜という時間帯に行われる。日本人大学生は大学での授業が終わった後、サークル活動やアルバイトをしていることが多く、使える時間が限られていた。ペアリングの際には Skype セッションが可能な時間帯が合うことを最優先したが、日本人学生にとっては、Skype の時間を確保するのは容易ではないようだ。これまでは日本人参加者のドイツ語学習への動機の高さも影響して、参加者らはなんとか時間を調整し、定期的にセッションを行っていたが、参加者が時差による時間調整の難しさを抱えていることは、常に念頭に置いておく必要がある。

4-2. 技術的な問題

2010年のプロジェクト開始当初に問題となったことは、①メールを送る際にドイツ語の特殊文字や日本語が文字化けしてしまう、② Skype 時にインターネット回線が安定しない、③パソコンに内蔵されているカメラの画質が悪いということであった。文字化けの問題は、参加者が使用するパソコンにドイツ語／日本語とその入力用キーボードをインストールしてもらうことで解決した。インターネット接続の問題は、当初は有線 LAN を使用している側からインターネット電話をかけてもらうなどの工夫が必要だったが、こ

こ数年のIT技術の発達により、現在は無線LANを使用しても非常に安定しており、1～2時間話しても接続が途切れることは稀である。画質の問題は、当初は性能の良いウェブカメラを貸し出し、パソコンに接続して使用するという方法を取っていたが、現在は内蔵されているカメラの性能が上がりほとんど問題にならなくなっている。現在も問題なのは、パソコンでのドイツ語／日本語の入力方法とSkypeの操作方法を知らない参加者がいることである。各言語とそのキーボードのインストール方法、キーボードの配列、文字の入力方法はコーディネーターがガイダンスの際に説明し、Skypeの操作上の問題は個別に対応している。ただし、ここ数年の参加者を取り巻く環境の変化により、現在はSkypeの使用経験のない参加者がほとんどいないため、問題は年々少なくなっている。

4-3. 使用するツールの問題

2010年と2011年に行ったプロジェクトはメールとSkypeでのやり取りを組み合わせたものであったが、現在はSkypeのみでのEタンドムを行っている。それは、授業でドイツ語を書かされることが多い日本人ドイツ語学習者にとってメールを書くことが否定的に捉えられており、また、ドイツ人日本語学習者の中には、負担の大きさからメールを書くのをやめた参加者がいたからである。ドイツ人日本語学習者にとって、日本語でメールを書くことは、日本語の表記体系を覚えなければならないことに加え、日本語のキーボードを正しく操作し文字を表示するという、二重苦を伴うものである。また、最近はSNSの普及に伴い、パソコンでメールのやり取りをほとんどしないという参加者が増えている。プロジェクトに使用するツールを選ぶ際には、参加者にそのニーズがあるか、負担が大きすぎないか、そのツールが参加者の普段のコミュニケーションパターンと合っているか、を考慮すべきである。

4-4. より良いガイドラインの探求

ガイドラインは参加者がこのプロジェクトを活用してうまく学習を進めるための足場である。

2010年に行ったプロジェクトでは、各週のやり取りの内容や方法、訂正の仕方が詳細に決められていた。これは参加者の混乱を回避し、スムーズにやり取りが行えるようにとの意図でデザインされたものであった。しかし、実際には、参加者はプロジェクトが始まってまもなくパートナーと話したい内容を見つけ、ガイドラインで決められていたテーマは二人が話したいものとは一致しなくなってしまった。そこで、二回目以降のプロジェクトでは、第三週目以降の学習内容と方法は学習者それぞれに自由に決めてもらうようにした。ただし、回を重ねるとアイデアが尽きてしまい、何を学習したらいいのかわからなくなる学習者もいるため、そのような場合に備えて、選択できる複数のテーマやタスクをガイドラインに含めるようにしている。理想的には、ガイドラインは、参加者自身が自分の状況を考慮した上で学習目的に合った内容とやり方を選択でき、自己表現をしながら学習活動を行い、それを自分で振り返ることができるものであるべきである。しかし、そのようなガイドラインを作るのは容易なことではない。実践を振り返り、参加者の意見を取り入れながら、改善を重ねることが大切だと考えている。

4-5. コーディネーターの役割

それぞれの学習者がE タンデムで自分の目標を達成するために、コーディネーターができること／すべきことはなにかという問いは、私が実践を行う上で常に考え続けていることである。タンデム学習では一対一で学習を進めるため、コーディネーターが参加者の学習に直接関与することはできない。また、パートナー同士が良い関係を築くことがより効果的な学習につながるため、コーディネーターが安易に二人の間に入るのは好ましくない。そのような状況でコーディネーターにできるのは、それぞれの学習者にとって適切な学習環境をペアの2人で作っていけるように、基礎となる環境を整えることではないかと思う。具体的に私が行っていることは、①適切なガイドラインを作ること、②学習者が必要なリソースへアクセスできるようにすること、③学習について振り返る機会を提供すること、④各ペアの良好な関係構築をサポートすることである。①については4.4.で述べた通りである。②については、上に述べたプロジェクトでは、学習者が必要なリソースにアクセスす

るのが難しいことがわかったため、現在は Skype セッションで利用できるフレーズ集や、無料で使用できるインターネット上の学習リソースのリストをホームページ上で提供したりしている^[3]。学習者がどのようなリソースにアクセスが可能かを把握し、必要に応じてリソースの情報を提供したり、学習目標に合った学習をするためにどのようなものがリソースになりうるかを学習者と一緒に考えたりすることが大切であると考えている。③については、現在、アドバイジングセッション (Elstermann, 2016) の可能性を模索している。以前行ったグループアドバイジングセッションは、私とドイツ語学習者二名、あるいは日本語学習者二名が Skype を介して会い、E タンデムでの経験を共有したり、問題点について話し合うというものであった。Skype に一度に接続できる人数の上限があることや、時差を考慮しなければならないなどの制約はあるが、このような機会を設けることで、学習者は学習方法のレパトリーを広げたり、パートナーとの学習を振り返って問題に気づき、それを解決したりすることができると思われる。④については、二人ができるだけ早い段階で良い関係を築き、互いに協力し合いながら学習を進めていけるようサポートすることを心がけている。参加者の中には初めて会うパートナーに不安を感じたり、パートナーにうまく自分の要望を伝えられない人もいる。そのような場合は、コーディネーターがやり取りに対する不安を取り除いたり、パートナーと学習内容や方法を相談できるようにサポートすることが大切であろう。

5. おわりに

本稿で紹介した E タンデムの実践を通して、参加者らは私に、パートナーとの E タンデムでの経験を生き生きと語ってくれた。また、私は、目標言語がもう伸びないと目標を見失っていた学習者が新たな目標を見つけて学習を再開したり、自分の学んだ目標言語が本当に使えるのだろうかと思心暗鬼になっていた学習者がパートナーとのやり取りを通して積極的に目標言語を使うようになったりする姿を目にしてきた。教師がいなくても参加者は学習者オートノミーを発揮して学習を進めることができるのである。しかし、それは常に自然に起こるわけではない。コーディネーターが、学習者それぞれ

がオートノミーを発揮しながら二人で良い関係を築けるような学習環境作りをすることで、学習者同士の有意義な言語学習がうまれるのである。

(九州大学)

【謝辞】

これまでにタンデム学習の実践・研究にご協力くださった皆様に、心より感謝いたします。

●注●

- [1] タンデム学習には、学習者2人が直接会って行う対面式タンデム学習とインターネットを介して行うEタンデムがある。1990年代以降、IT技術の革新的な進歩と普及を背景にEタンデムという形態が生まれ、近年はSkypeなどのインターネット電話を使用したEタンデムが広範囲で行われるようになっている。
- [2] データはすべて原文のまま引用し、ドイツ語部分には筆者による訳をカッコの中に付け加えた。
- [3] <http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/center/tandem/index.html>

□参考文献□

- 脇坂真彩子 (2014) 「Eタンデムにおける動機づけのメカニズム：日本語学習者とドイツ語学習者のケース・スタディ」 (未刊行博士論文) 大阪大学大学院文学研究科。
- Brammerts, H. & Little, D. (Eds.) (1996). *Leitfaden für das Sprachenlernen im Tandem über das Internet. Manuskripte zur Sprachlehrforschung. Bochum: Brockmeyer*. 「インターネットによるタンデム学習のための手引き」
<http://www.cisi.unito.it/tandem/email/org/nih/LEITFADEN.html> (2016年6月28日閲覧)
- Elstermann, A. K. (2016). *Learner support in telecollaboration: Peer group mediation in teletandem* (Unpublished doctoral dissertation). Ruhr-Universität Bochum, Germany.
- Lewis, T. & Walker, L. (Eds.) (2003). *Autonomous language learning in tandem. Sheffield, UK: Academy Electronic Publications*.